大子町地域公共交通網形成計画
（概要版）

平成28年 3月
大子町

１．大子町の地域公共交通の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．計画の位置付けなど・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
３．持続可能な地域公共交通網の形成に関する基本的な方針・・・ 5
４．地域公共交通網形成計画の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
５．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項 9
６．計画の達成状況の評価に関する事項・・・・・・・・・・・・・・16

1．大子町の地域公共交通の課題

少子高齢化を見据えた外出環境の再構築が課題

○高齢者の外出環境の再構築

・本町では、60代、70代、80代と年齢が進むに従い、外出に困る割合が大きく増加します。

・これらの困りごとの中には、「通院を我慢する」といった健康上の問題にかかわる場合も存在しており、深刻な状態にあります。

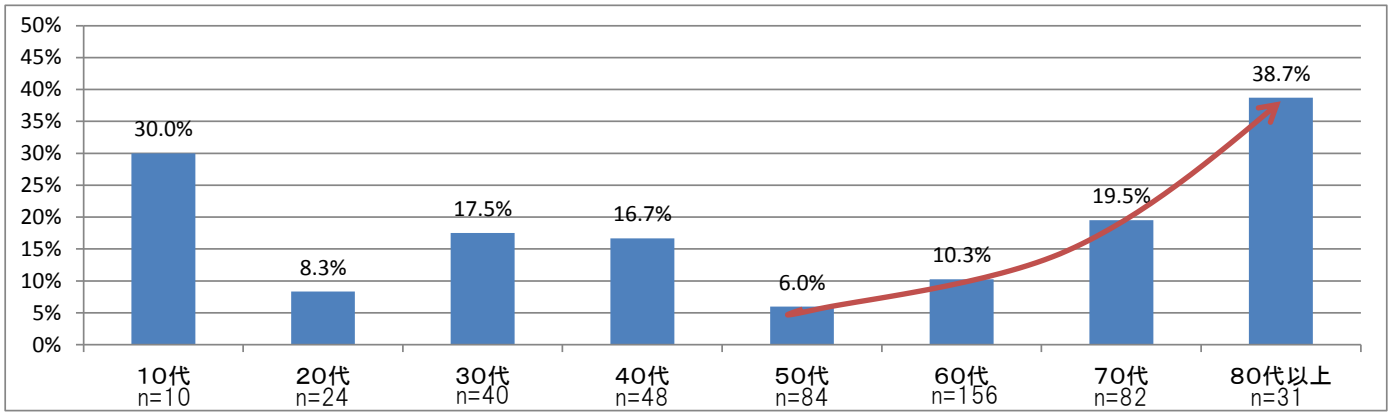


図　年代別の困りごとの有無

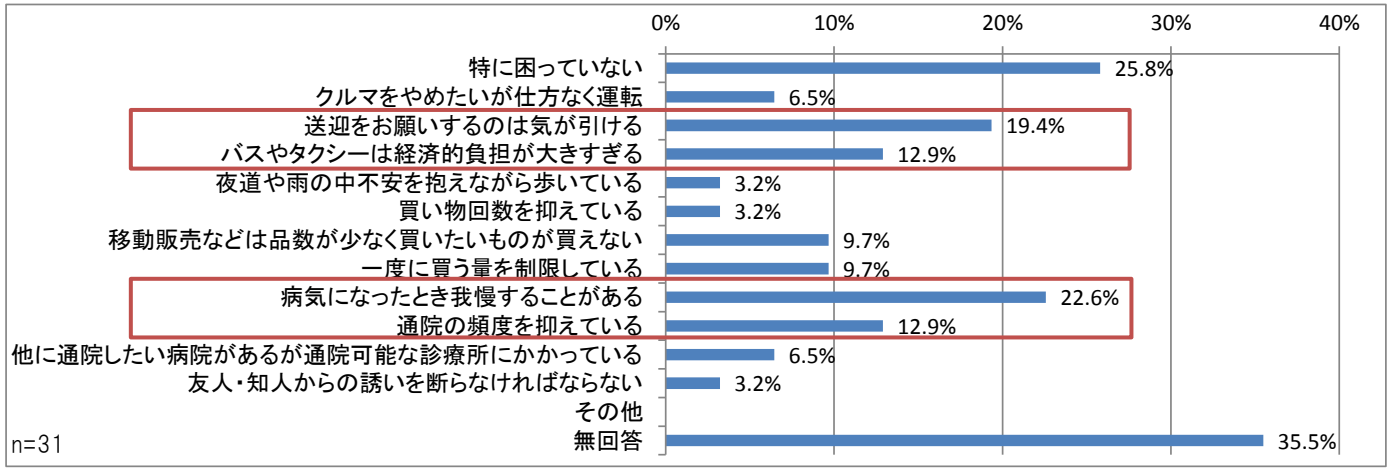


図　80代以上の具体的な困りごと

資料：平成27年度町民アンケート

1．大子町の地域公共交通の課題

少子高齢化を見据えた外出環境の再構築が課題

○高齢者の外出環境の再構築

・医療施設が集まる中心市街地と、商業施設が集まる国道118号沿道とがやや離れており、自家用車なしには買い物行動と通院行動が連動しない状態にあります。

・郊外部では、山間部に集落が点在しており、バス停まで遠く、かつタクシー利用も経済的理由で困難な場合もあります。
高齢になっても自家用車を使い続けなければならない状況にあります。

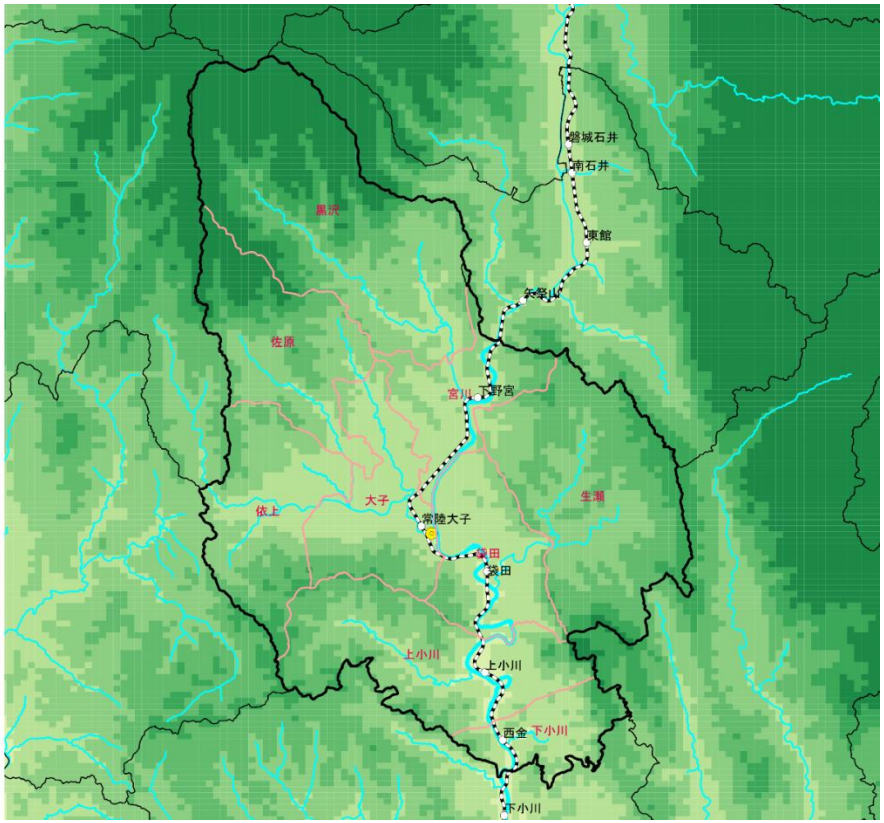


図　大子町の標高

資料：国土数値情報

○未成年の通学環境の維持

・本町内の小中学校は統廃合が進み、通学にスクールバスや路線バスを利用する生徒も多く存在しています。このような通学環境は維持していかなければなりません。

○交流人口の拡大支援

・今後、人口減少・少子高齢化が一層進むと懸念され、観光・交流人口の拡大が必須です。

1．大子町の地域公共交通の課題

事業としての持続可能性の確保が課題

・本町が地域公共交通等の維持にかけている費用は年々増加し、平成27年度には１億円を超えることが想定されています。
特に、タクシー利用助成事業の利用増、国の貸切バス運賃制度の改定によるみどり号やスクールバスの委託費増加が顕著となっています。

・一方、路線バスなどの利用者は減少傾向にあり、更なる収支の悪化が懸念されます。
路線バスへの町の補助を増額しましたが、依然、事業としては赤字が継続しています。

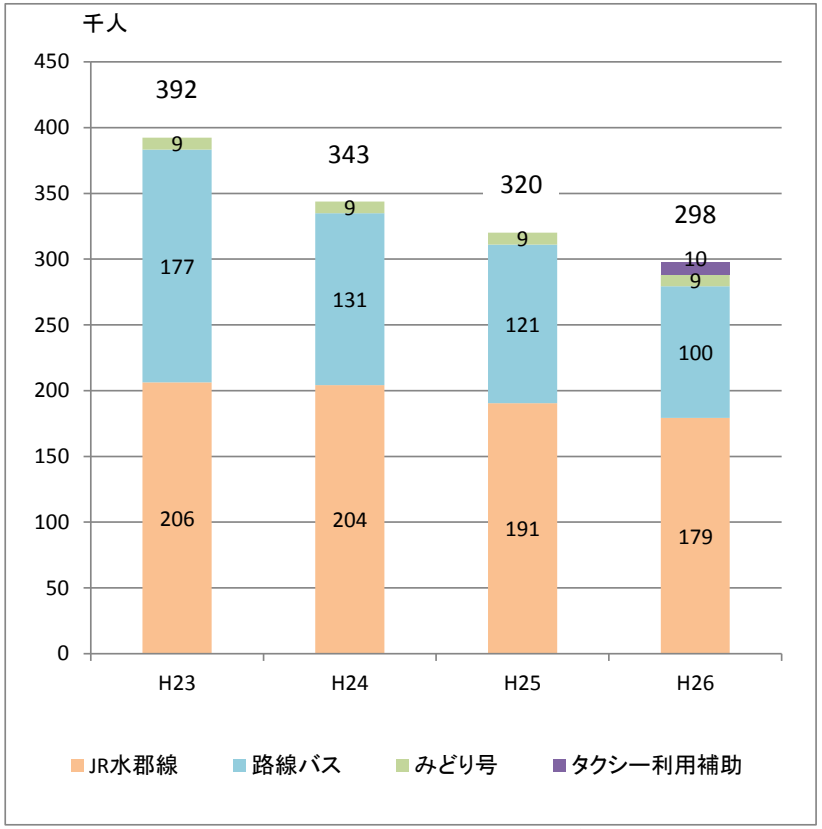


図　公共交通の利用者数の推移

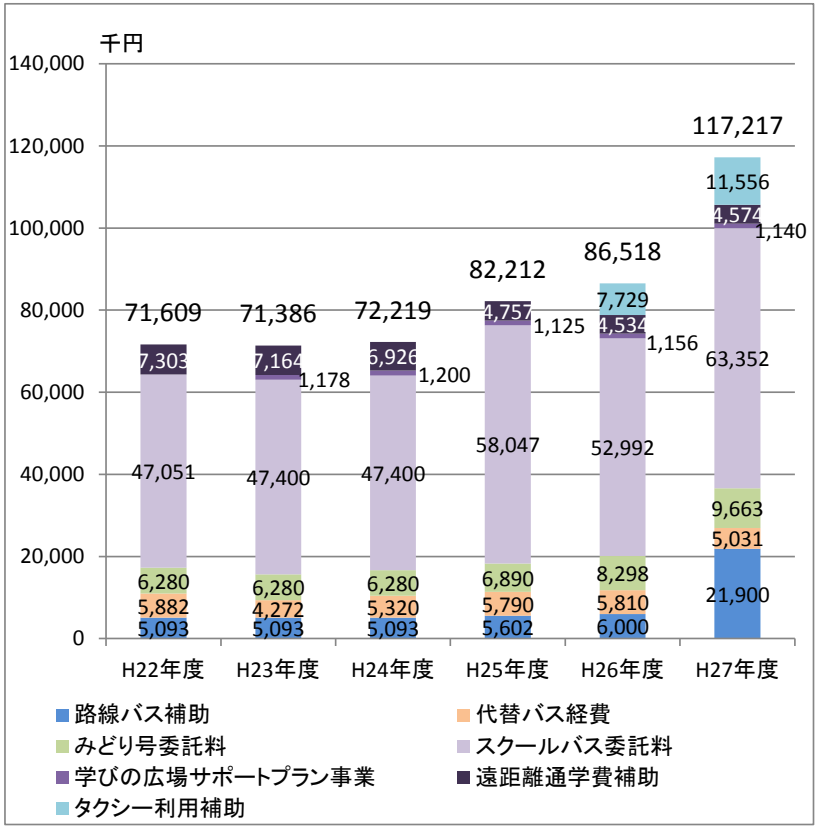


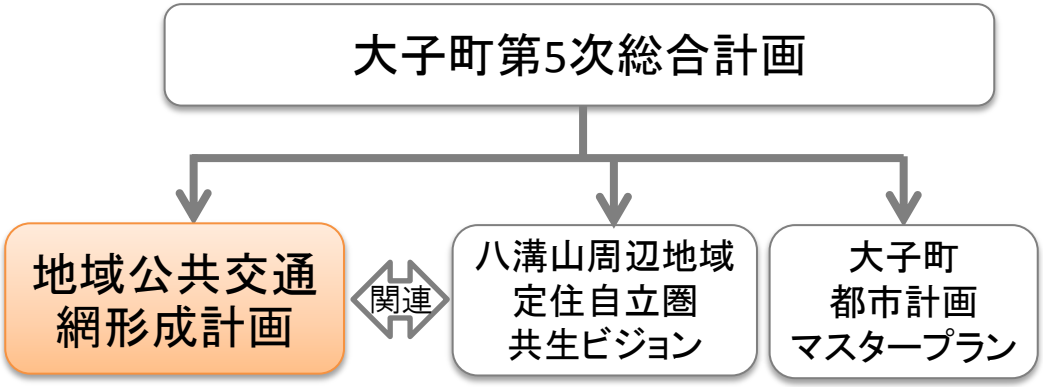
図　公共交通への町の負担額推移
※平成27年度は、平成27年12月における決算見込み額及び予算額

2．計画の位置付けなど

(1)本計画の位置付け

本計画は、町全体の計画である「大子町第5次総合計画」の下位計画です。

・本計画は、町全体の上位計画である「大子町第5次総合計画」の下位計画に位置付けられるため、これと整合を図ります。
・この他、「八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン」とも関連付けられるものです。



(2)計画の区域

本計画の区域は町内全域とします。

(3)計画期間

平成28年度～平成32年度までの5年間とします。

・本計画の上位計画である「大子町第5次総合計画」の計画期間（平成22年度～31年度）を踏まえ、次期総合計画の策定を受けて本計画を見直すこととします。
・そのため、本計画の計画期間は平成32年度までとします。

3．持続可能な地域公共交通網の形成に関する基本的な方針

本町のまちづくりの方向性（大子町第五次総合計画）

【将来像】花と緑と若者の住む　互いに支え合う心豊かなまち

【目標1】住みよいまち

・結婚や出産、子育てに希望を持って暮らせるまち
・高齢者が生きがいを持って、健康で安心して暮らせるまち
・確かな学力とすこやかな体、豊かな心を育む教育のまち

【目標2】活力あるまち

・若者から高齢者まで生き生きと働ける環境のまち
・安全で安心な品質の高い特産品を提供するまち

【目標3】美しいまち

・四季折々の自然の恵みを豊かに感じながら、人々が活発に行き交うまち
・豊かな自然を守るため、町民が一体となって環境保全に取り組むまち

本町の地域公共交通の課題

①少子高齢化を見据えた外出環境の再構築が課題
　・高齢者の外出環境の再構築
　・未成年の通学環境の維持
　・交流人口の拡大支援
②事業としての持続可能性の確保が課題

地域公共交通網の形成に関する基本的な方針

自家用車を使わなくても生活できる外出環境の持続可能な提供

４．地域公共交通網形成計画の目標

目標１：高齢者及び小中学生・高校生の最低限の生活交通の保障

本町は、広い町域の中に集落が点在し、さまざまな理由で地域公共交通が利用できない町民が存在します。

このような町民も自家用車を利用しなくても日常生活を営なみ続けられるよう、移動手段を維持していきます。

しかし、町の財政も厳しい中、交通体系を維持していかなければならないことを踏まえると、過度なサービスを提供することは困難です。そのため、少なくとも最低限の生活交通（※）を保障するような交通体系を構築します。

（※）町民アンケート結果を踏まえると、町民の平均通院回数は月１～２回、平均買い物回数は、週３～４回

【施策の方向性】

・高齢者の通院・買い物交通の確保
・小中学生、高校生の通学環境の維持

【目標の達成度を測る指標】

指標	概要	現況値（年度）	目標値（年度）
地域公共交通などの利用者数	路線バス、みどり号、タクシー助成、通院送迎の利用者数	105,030人（平成27年度）	112,800人（平成32年度）
通院に困りごとを抱える町民の割合	80代以上の町民の中で、通院に困りごとを抱える割合	22.6%（平成26年度）	10.0%（平成32年度）

４．地域公共交通網形成計画の目標

目標2：事業の持続可能性の向上

町民に生活交通サービスを提供し続けるためには、町負担の増加や事業採算性の悪化を持続可能な水準にとどめる必要があります。

そのためには、各移動手段の連携や役割分担を重視し、効率的な運行を行う（経費を抑制する）とともに、利用者の増加（運賃収入の増加）を図る必要があります。

【施策の方向性】

・路線バス・みどり号とスクールバスの最適な組み合わせの実現
・みどり号の路線バス化
・地域公共交通の利用促進・意識の醸成

【目標の達成度を測る指標】

指標	概要	現況値（年度）	目標値（年度）
利用者１人あたりの町負担額	路線バス、みどり号、タクシー助成、通院送迎の利用者1人あたりの町の負担額	650円（平成27年度）	650円（平成32年度）

4．地域公共交通網形成計画の目標

目標3：観光振興への寄与

今後懸念される人口減少・少子高齢化に対して、本町では観光・交流人口拡大を検討しています。

本町には「袋田の滝」などの観光資源が豊富に存在しますが、観光客の多くは自家用車で来訪します。しかし、中には、JR水郡線を利用して訪れる観光客も存在しています。

そのため、土日のJR水郡線で来訪する観光客が観光地に円滑に移動できるよう図ります。

【施策の方向性】

・JR水郡線の駅と観光地との間のアクセス確保

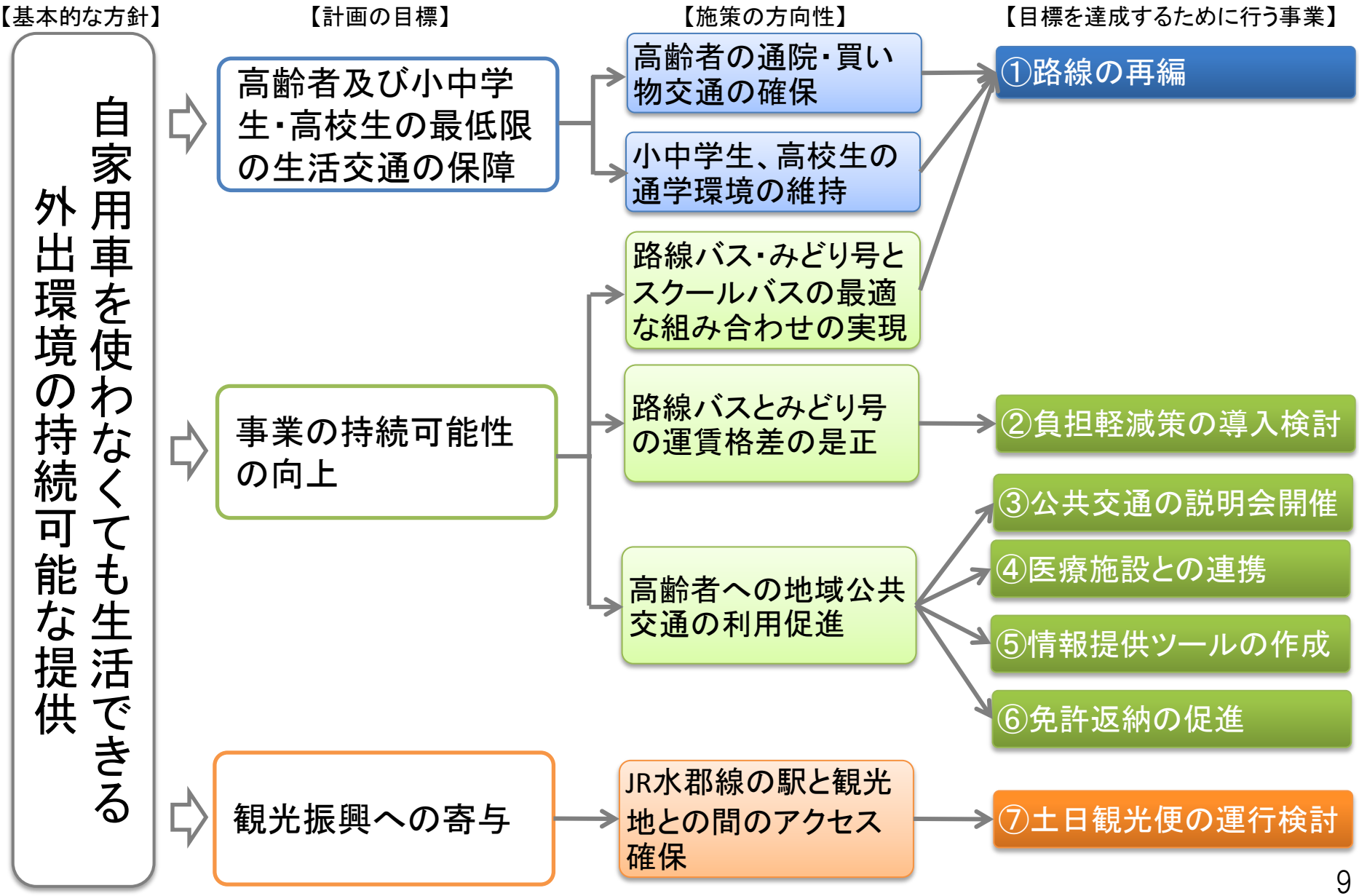
【目標の達成度を測る指標】

指標	概要	現況値（年度）	目標値（年度）
本町の観光入込客数	町内観光施設の入込観光客を集計したもの（※）	960千人 （平成26年度）	1,500千人 （平成32年度）

※観光動態調査による入込客数からイベント入込客数などを除いた値

5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(1)各事業の一覧



5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(2)実施スケジュール

具体的な施策		実施主体	H28年度				H29年度				H30年度				H31年度				H32年度			
			4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
①路線の再編		大子町 交通事業者	再編実施計画				再編				見直し				見直し				見直し			
							評価・改善				評価・改善				評価・改善				評価・改善			
②負担軽減策の導入検討		大子町		検討			実施															
③公共交通の説明会開催		大子町 交通事業者			説明会			説明会		説明会		説明会		説明会		説明会		説明会		説明会		説明会
④医療施設との連携		大子町 医療施設		検討			実施															
⑤情報提供ツールの作成	方面別の路線図・時刻表の作成・配布	大子町 交通事業者 町民			作成				改訂				改訂				改訂				改訂	
	バスロケーションシステムの導入検討	交通事業者							導入検討										導入			
⑥免許返納の促進		大子町 警察		内容検討										実施								
⑦土日観光便の運行検討		大子町 交通事業者					実施可能性の検討				実証実験											

5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(3)各事業の概要

①路線の再編

１）路線の再編の基本的な考え方

【通学時間帯(～8:00、15:00～)】路線バス、スクールバスで通学手段を維持

〇現在の通学便を維持（登校１便、下校２便）
〇手段は路線バスとスクールバスによる。
〇路線バスで代替可能なスクールバスは、路線バスで対応することを基本とする。
　ただし、国の補助が期待できる路線は、スクールバスの運行を維持する。

【通院・買い物時間帯(8:30～15:00)】路線バス、タクシー利用助成などで移動手段を維持

〇通院、買い物どちらにも乗り継ぎ無しで行けるよう、中心市街地・R118を通る。
〇手段は路線バス、タクシー利用助成事業、通院送迎サービス事業による。
〇利用者のわかりやすさを考慮し、みどり号を路線バス化することで、移動手段の簡素化を図るとともに、利用の少ない路線は廃止も念頭に見直す。
〇路線バスは、既存の週5回運行の路線のほか、中心市街地から遠い山間部の集落に可能な限りアクセスすることで、所要時間がかかっても最低限の町民の買い物・通院行動を保証できる週2回運行便を設定する。
〇山間の集落など路線バスで対応困難な地域の移動手段は、施設や地域住民と協働により、タクシー利用助成事業、通院送迎サービス事業、新たな交通手段などの組み合わせにより確保する。

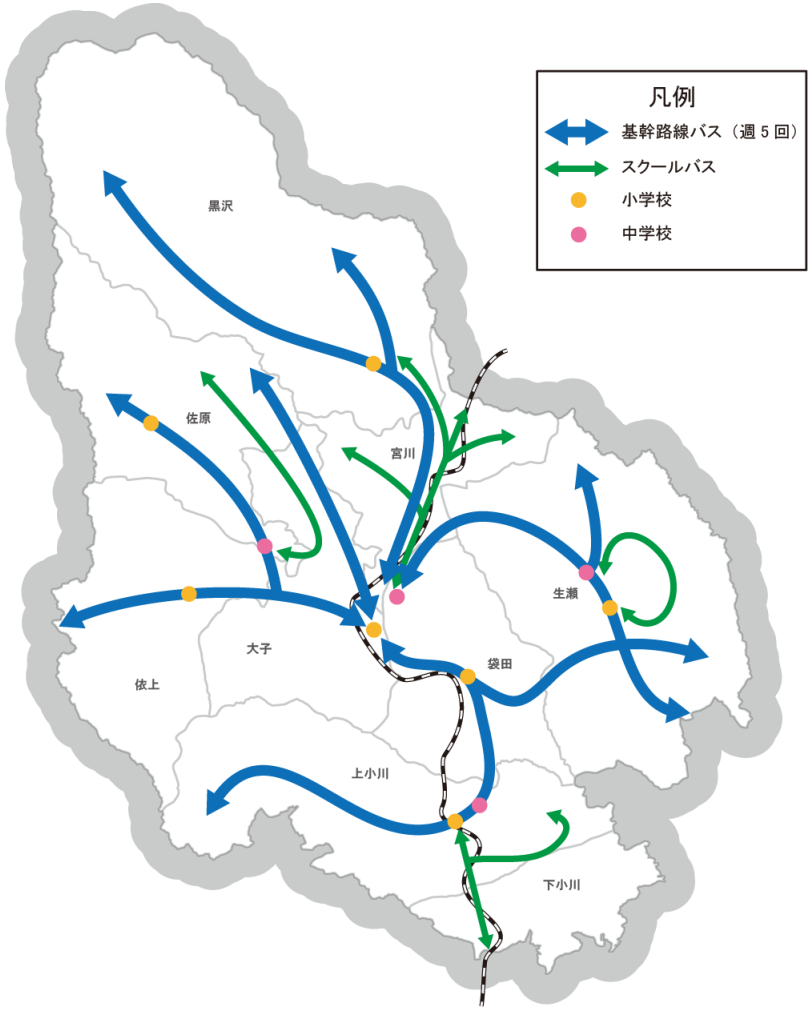
5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(3)各事業の概要

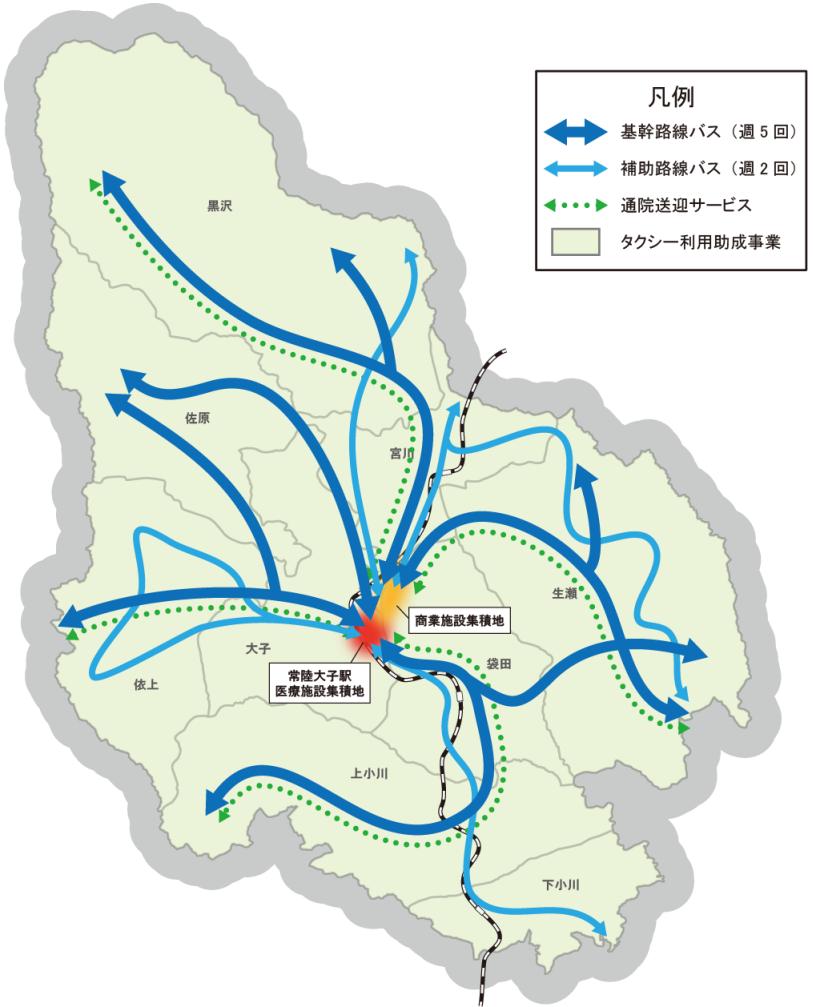
①路線の再編

2）路線再編のイメージ

○通学時間帯



○通院・買い物時間帯



5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(3)各事業の概要

②負担軽減策の導入検討

再編により、新たに路線バスの運賃が必要となる利用者の負担を軽減するため、交通系ＩＣカードを活用し昼間時間帯の運賃割引を検討します。

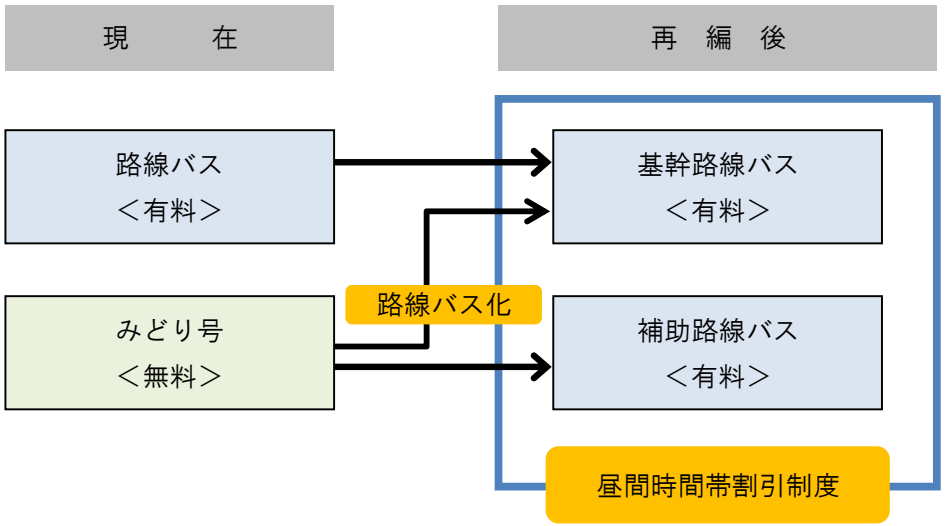


図　負担軽減策のイメージ

③公共交通の説明会開催

町民の方に、公共交通の現状や路線再編等の取り組み、バスの乗り方を知ってもらうために、公共交通に関する説明会やバスの乗り方の説明会を実施します。

図　説明会のイメージ

図　バスの乗り方室のイメージ

5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(3)各事業の概要

④医療施設との連携

患者の通院や診療後の買い物について、医療施設と連携し、路線バス、タクシー利用助成事業等の各種交通手段の利用促進を連携して実施します。

⑤情報提供ツールの作成

1）方面別の路線図・時刻表の作成・配布

町内の公共交通は、常陸大子駅と各地区を結ぶ方面別のバスネットワークが形成されていることから、鉄道との乗継なども考慮した方面別の路線図・時刻表を作成・配布します。

図　方面別時刻表（南信州地域の例）

2）バスロケーションシステムの導入検討

GPS（全地球測位システム）によってバス運行状況をリアルに把握し、インターネット（パソコン・携帯電話）で利用者に情報提供するバスロケーションシステムの導入を検討します。

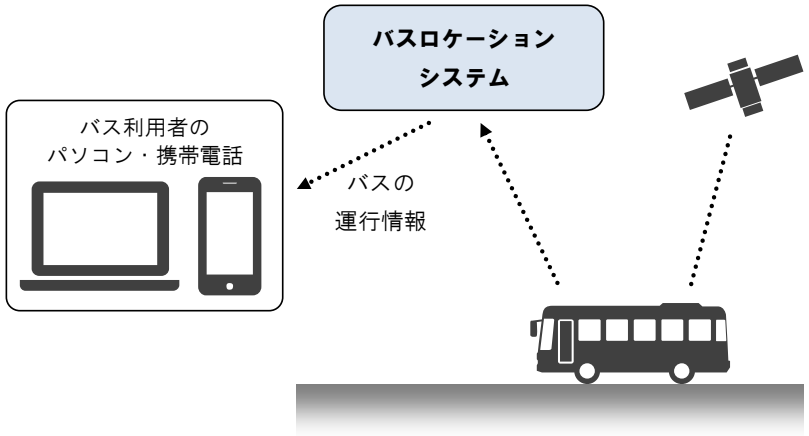


図　バスロケーションシステムのイメージ

5．目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(3)各事業の概要

⑥免許返納の促進

免許返納者を対象とした地域公共交通の運賃割引等、免許返納に対するインセンティブを付与することにより、高齢者の免許返納の促進を図ります。

群馬県高崎市では、高齢者の免許返納を促進するため、免許返納者に対して、バス・タクシー利用券を贈呈している。
免許返納者は、免許証返納時に①～③のいずれか1つを選択できます。（1回のみ）

①敬老バスカード5,000円券1枚(5,800円分)
　ぐるりん回数券1,000円券1組(1,200円分)
　のセット
②よしいバス回数券1,000円券6組(6,600円分)
③タクシー利用券1組（6,000円分）

⑦土日観光便の運行検討

土日の八溝山方面の路線を整備し、登山客の増加を図ります。
また、袋田の滝～中心市街地の路線を整備することにより、観光客の回遊性を高め、中心市街地への誘客及びまちの活性化を図ります。

図　土日観光便のイメージ

６．計画の達成状況の評価に関する事項

計画目標を確実に達成するため、ＰＤＣＡサイクルの実行による進行管理を行います。

ＰＤＣＡサイクルは、当該計画（５年間）、毎年の取り組み（１年間）の２つの期間で実施し、それぞれについて効果測定と評価を行うことで、次年度以降の効果的な施策実施につなげます。

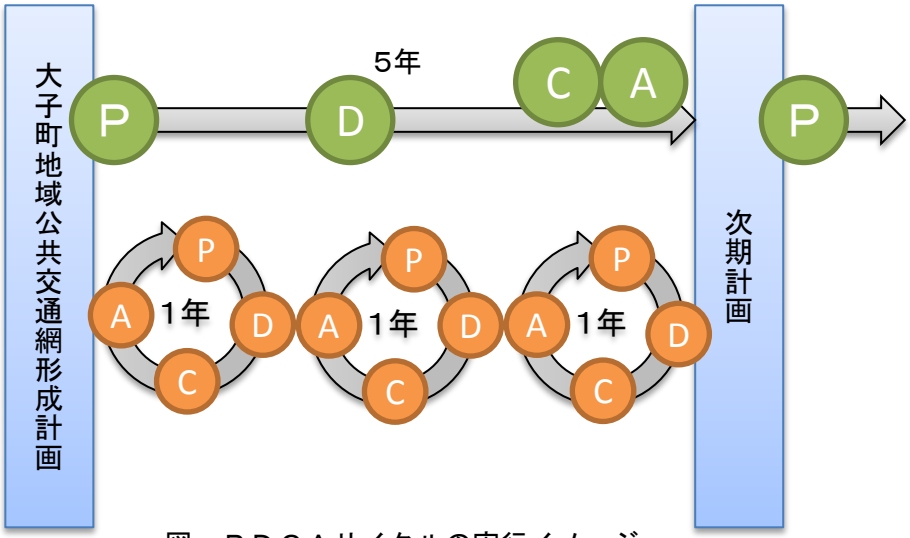


図　ＰＤＣＡサイクルの実行イメージ

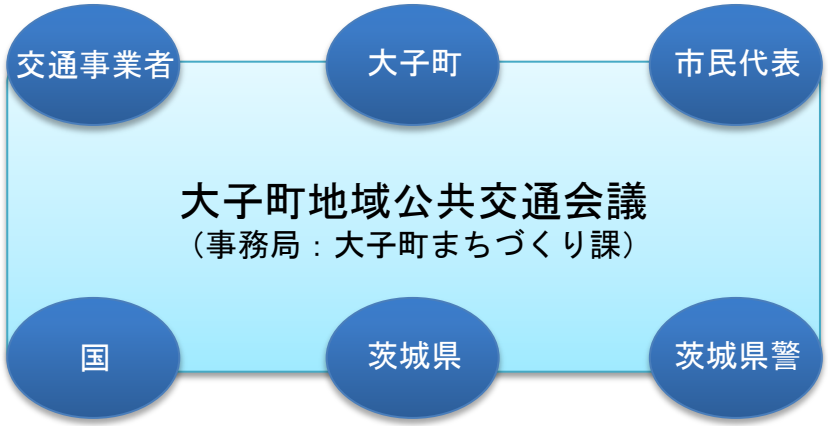


図　ＰＤＣＡサイクルの実行主体

表　達成状況を把握するための指標と測定方法

分類	指標	測定方法
計画	地域公共交通などの利用者数	各運行主体が保有するデータ
	通院に困りごとを抱える町民の割合	町民アンケート
	新規高齢利用者数	ICカードデータ
	利用者１人あたりの町負担額	町保有データ
	本町の観光入込客数	町保有データ
毎年の取り組み	地域公共交通などの利用者数	各運行主体が保有するデータ
	新規高齢利用者数	ICカードデータ
	利用者評価	説明会参加者アンケート
	利用者１人あたりの町負担額	町保有データ
	本町の観光入込客数	町保有データ